AgileWorks R3

desknet’s NEO 連携設定ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. はじめに 4
1.1. 本書の目的 4
1.2. 対象読者 4
1.3. 対応製品、バージョン 4
1.4. 対応 AgileWorks バージョン、オプション 4
1.5. 他社商標について 4
2. 連携概要 5
2.1. 実現機能 5
2.2. 前提条件 6
製品間ログインユーザーのキー項目同期 6
2.3. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方 6
3. 連携設定 7
3.1. 設定フロー 7
4. AgileWorks ログイン認証設定 8
4.1. ユーザーサイト用 SSO 設定 9
4.2. ガジェット用 SSO 設定 11
5. desknet's NEO 設定 13
5.1. メニューの設定 13
オプションメニューの作成 13
作成したオプションメニューの配置 16
5.2. ガジェットの設定 17
ポータルの作成 17
作成したポータルの配置 19
5.3. パラメータ認証 19
5.4. desknet's NEO 側の設定で指定する URL 20
オプションメニュー（ユーザーサイトリンク）用 URL 20
ガジェット表示 URL 21
5.5. 設定・動作確認 22
6. 応用設定 23
6.1. 既定のログインを停止する 23
7. トラブルシューティング 24
7.1. 認証情報のトレース 24
認証成功時のデバッグログ 25
デバッグログが出力されない 25
デバッグログに「NOT FOUND」と出力される 25

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、desknet's NEO から AgileWorks へシングルサインオン連携（以下、SSO 連携と略）するための手順を説明します。

1.2. 対象読者

本書は、AgileWorks のログイン認証機能に関する基本知識を持つ方を対象としています。
ログイン認証に関する詳細はガイド資料「Aw02-ログイン認証ガイド」「AwOp01-SSO 設定ガイド」を参照してください。

1.3. 対応製品、バージョン

desknet's NEO との連携のみ対応しています。desknet's、desknet's Enterprise は対象外です。
本書記載の時点では、desknet's NEO V5.x/V6.x/V7.x/V8.0/V8.5/V8.6/V9.0/V9.5 R1.0
との SSO 連携が確認できております。

1.4. 対応 AgileWorks バージョン、オプション

本書で説明する連携機能を利用するには、「desknet's NEO 連携」オプションが必要です。
詳細につきましては、AgileWorks 販売代理店までお問い合わせください。

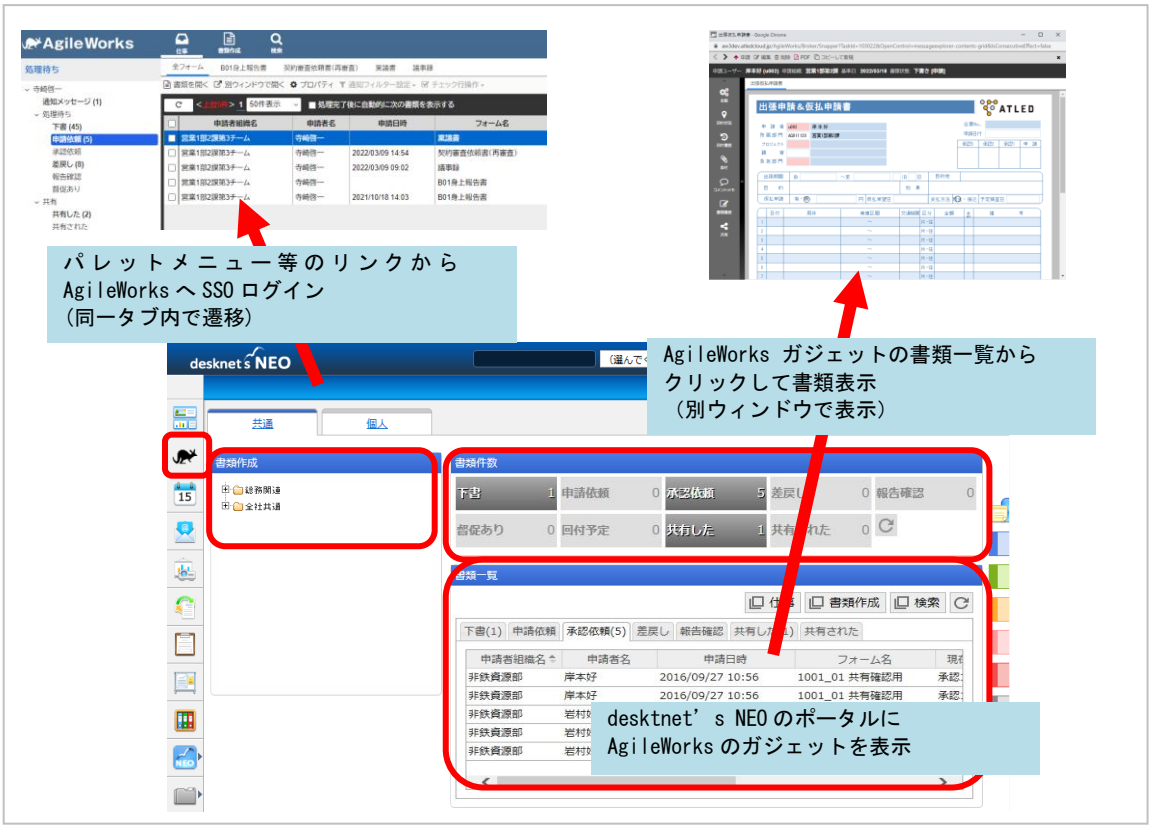
1.5. 他社商標について

desknet's、desknet's NEO、デスクネッツは株式会社ネオジャパンの登録商標です。
その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM)の表示を省略しています。ご了承ください。

2. 連携概要

2.1. 実現機能

AgileWorks が desknet's NEO と SSO 連携すると以下の機能が実現できるようになります。

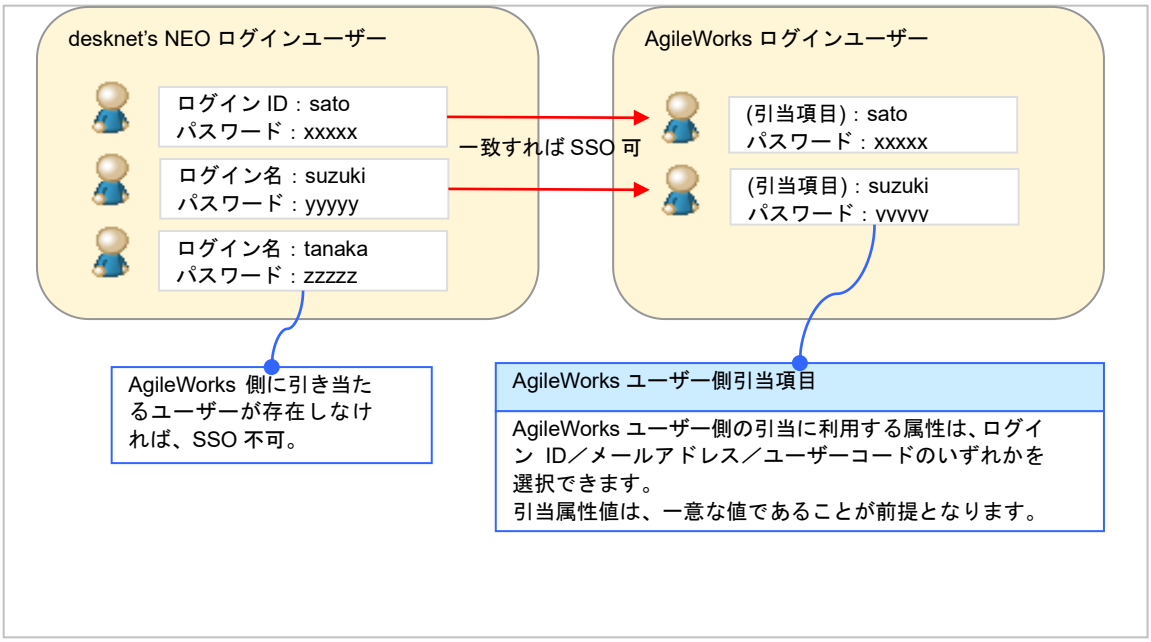


2.2. 前提条件

製品間ログインユーザーのキー項目同期

AgileWorks と desknet's NEO の連携は、desknet's NEO ユーザーの「ログイン ID」と AgileWorks ユーザーの属性情報（ログイン ID／メールアドレス／ユーザーコードのいずれか）を合わせる必要があります。
AgileWorks ユーザーのどの属性と引き当てるかについては、AgileWorks「ログイン認証」設定画面から設定します。
※上記に加えて、パスワードを利用した認証も可能です。

設定手順の詳細は「AgileWorks ログイン認証設定」を参照してください



2.3. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方

ガジェットにてログイン（SSO）を行った直後は AgileWorks のライセンスにてカウントされる同時ログインユーザー数にはカウントされません。
ガジェットから「ユーザーサイト」や「書類（ドキュメントビューア）」を開いたタイミングで同時ログインユーザー数にカウントされるセッションに変化します。

その後、ユーザーサイトや書類の操作を続けている限り、同時ログインユーザー数にカウントされ続けますが、
必要な操作（書類の申請や承認など）を終え、ガジェットのリロード、または自動リロードのみの時間が一定時間続くとそのセッションはライセンスの同時ログインユーザー数にカウントされなくなります。
※ガジェットにログインした直後と同じ扱いに戻ります。
　R3.1.1a 以降での動作です。

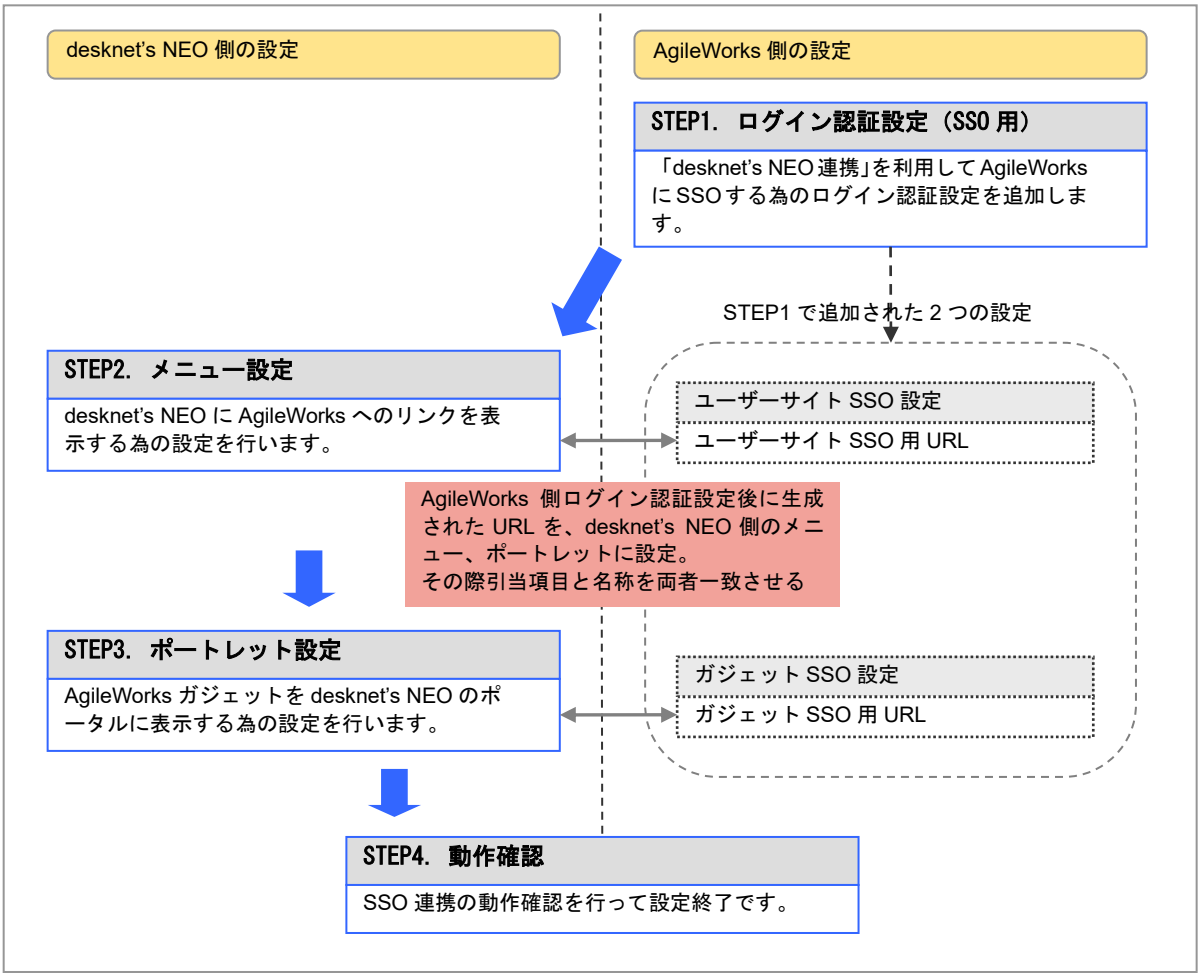
本動作の詳細につきましてはサポートサイトの「ガジェット利用時のセッションについて」をご参照ください。

3. 連携設定

「desknet's 連携」を行う際の設定手順について説明します。

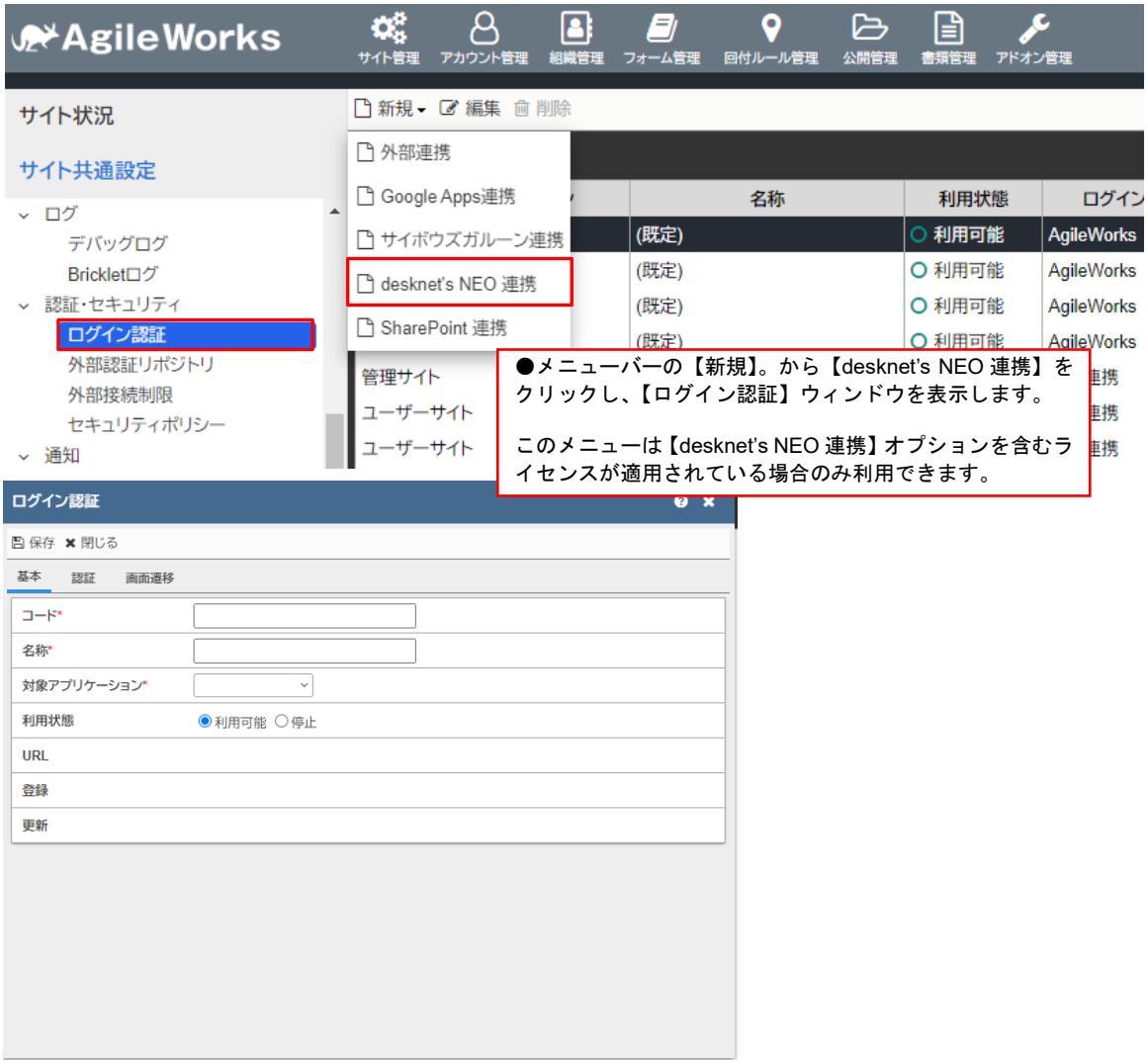
3.1. 設定フロー

連携設定の流れは下図の通りです。



4. AgileWorksログイン認証設定

AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】にアクセスし、「desknet's NEO 連携」用のログイン認証設定を追加します。

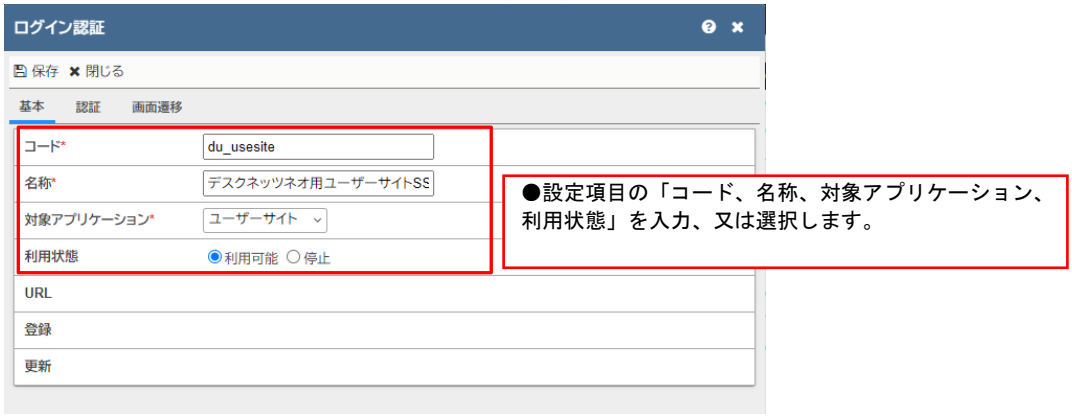


下記手順から、ユーザーサイト用 SSO 設定と、ガジェット表示用 SSO 設定の 2 つの設定を追加します。

4.1. ユーザーサイト用 SSO 設定

desknet's NEO のリンクから、AgileWorks ユーザーサイトへ SSO する為のログイン認証を設定します。
【ログイン認証】ウィンドウには複数のタブがあり、本書では【基本】→【認証】→【画面遷移】の順番で説明します。

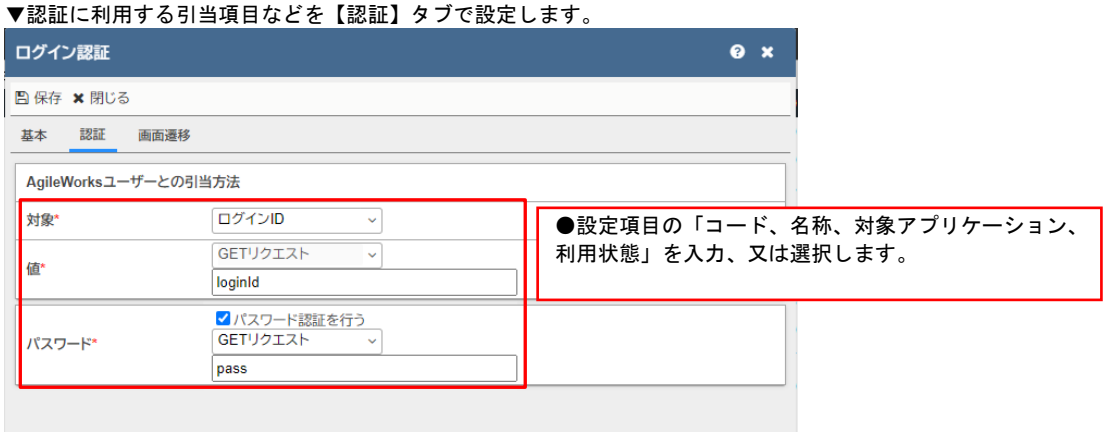
▼まずは設定のコードや対象のアプリケーションを【基本】タブで設定します。



▼【基本】タブの設定項目

項目	説明
コード	設定を識別する為のコードです。 ログイン認証設定内で一意である必要があります。 例）dn_usersite ※ ここで指定したコードは、連携用 URL に利用されますので、 dn_usersite と指定しておくとマニュアル通り読み進めることができます。
名称	設定を識別する為の名称です。 例）デスクネッツネオ用ユーザーサイト SSO
対象アプリケーション	"ユーザーサイト"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。
URL	対象のログイン認証を利用する際にアクセスする URL です。 設定の保存時に自動で生成されます。

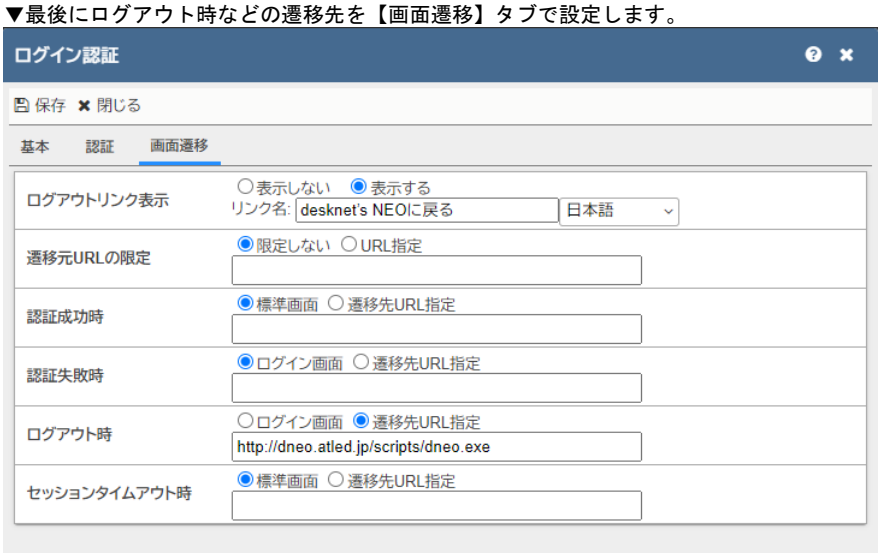
▼認証に利用する引当項目などを【認証】タブで設定します。



▼【認証】タブの設定項目

項目名	選択 / 入力値
対象	認証に利用する引当項目を以下から選択します。 ・ユーザーコード ・ログイン ID ・メールアドレス ここで選択する引当項目の対象は AgileWorks 全ユーザー中、一意である必要があります。
値	対象で選択した引当項目を識別するパラメーター名を設定します。 パラメーターの受け渡しは GET リクエストのみです。
パスワード	認証にパスワードを利用するかどうかを設定します。 また、パスワードの受け渡し時の識別するパタメーター名を設定します。 パラメーターの受け渡しは GET リクエストのみです。

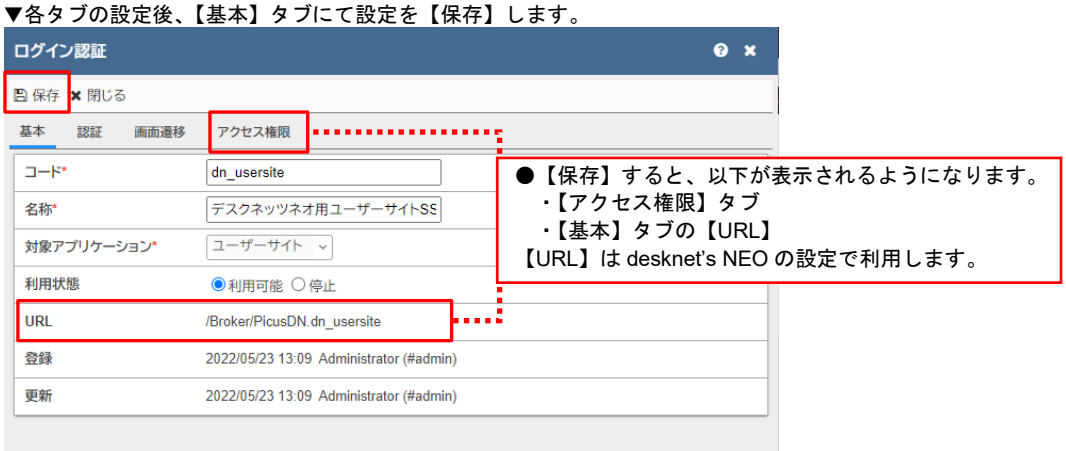
▼最後にログアウト時などの遷移先を【画面遷移】タブで設定します。



▼【画面遷移】タブの設定項目

項目名	選択 / 入力値
ログアウトリンク表示	AgileWorks ユーザーサイト右上の「ログアウト」リンク表示有無を指定。 必要に応じて「リンク名」を指定します。 ▼ 推奨設定 上画像のように、リンク名を" desknet's NEO へ戻る"等と変更しておくとログアウト後に desknet's NEO へ戻ることを明示できます。
遷移元 URL の限定	AgileWorks にアクセスする際の遷移元 URL を限定することができますが、desknet's NEO から他システムへの連携時はリファラーが取得できないため、【限定しない】に設定してください。
認証失敗時	ログイン認証失敗時の遷移先を指定します。 ▼ 推奨設定 例えば、desknet's NEO にのみ存在するユーザーが AgileWorks に入れない場合等を考慮して「desknet's NEO からの SSO 認証が許可されていません」等と表示する画面(HTML)を用意した上で、「認証失敗時の遷移先」には専用エラー画面 URL を指定します。
ログアウト時	AgileWorks ユーザーサイト右上の「ログアウト」を実行した時の遷移先を指定します。 ▼ 推奨設定 上画像のように、desknet's NEO の TOP ページ URL を指定しておくとログアウトすると desknet's NEO に戻れます。
セッションタイムアウト時	セッションタイムアウト時の遷移先を指定します。 ▼ 推奨設定 desknet's NEO の TOP ページ URL を指定します。 但し、セッションタイムアウト後の最初のアクセスは AgileWorks ユーザーサイト画面上に「セッションタイムアウトしました」エラーメッセージが表示されます。

▼各タブの設定後、【基本】タブにて設定を【保存】します。

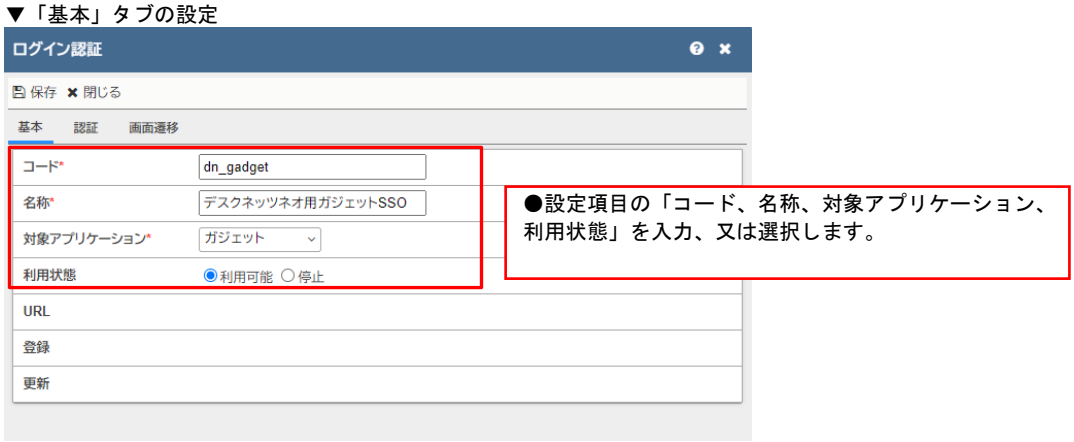


【アクセス権限】の詳細は別紙「Aw02-ログイン認証&SSO」の「ログイン認証設定のアクセス権限」を参照ください。
【基本】タブの【URL】の詳細は「ユーザーサイトリンク用 URL」を参照ください。

4.2. ガジェット用 SSO 設定

desknet's NEO のポータルに、AgileWorks 側ガジェットを表示する為のログイン認証設定手順を説明します。

▼「基本」タブの設定

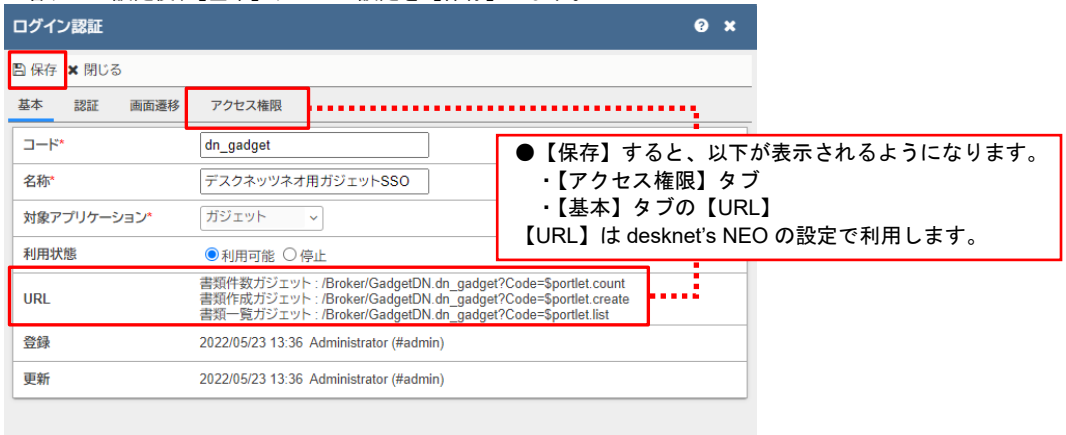


▼【基本】タブの設定項目

項目	説明
コード	設定を識別する為のコードです。 ログイン認証設定内で一意である必要があります。 例）dn_gadget ※ ここで指定したコードは、連携用 URL に利用されますので、 dn_gadget と指定しておくとマニュアル通り読み進めることができます。
名称	設定を識別する為の名称です。 例）デスクネッツネオ用ガジェット SSO
対象アプリケーション	"ガジェット"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。
URL	対象のログイン認証を利用する際にアクセスする URL です。 設定の保存時に自動で生成されます。

※【認証】、【画面遷移】の設定は、「ユーザーサイト用 SSO 設定」と同じ設定にしてください。

▼各タブの設定後、【基本】タブにて設定を【保存】します。



【アクセス権限】の詳細は別紙「Aw02-ログイン認証&SSO」の「ログイン認証設定のアクセス権限」を参照ください。
【基本】タブの【URL】の詳細は「ガジェット表示 URL」を参照ください。

ユーザーサイト用 SSO 設定と、ガジェット表示用 SSO 設定の 2 つの設定を追加すると、
「ログインユーザー設定」の一覧には下記 2 つの設定が表示されます。



5. desknet’s NEO設定

desknet’s NEO の管理者アカウントで desknet’s NEO にログインし、認証設定を行います。

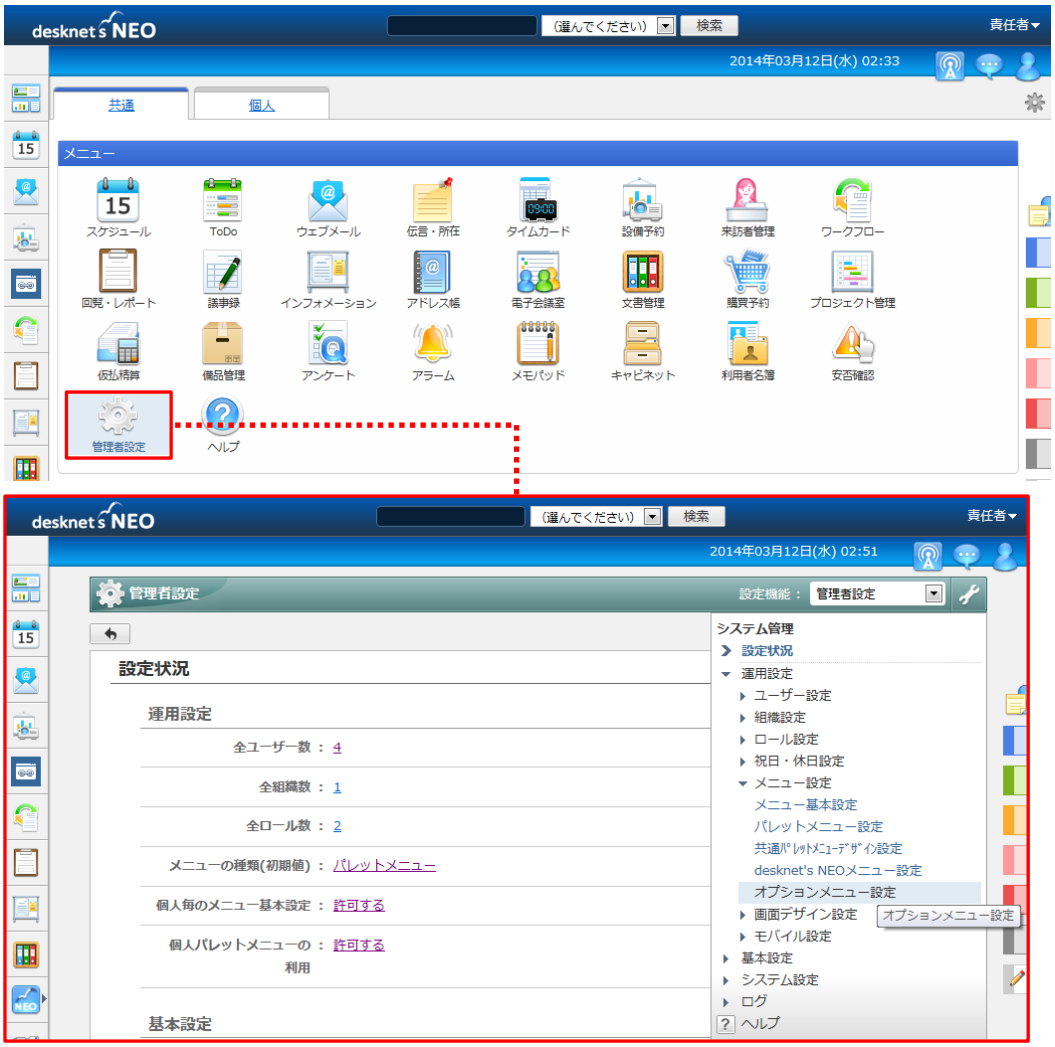
5.1.　メニューの設定

共通パレットメニューに AgileWorks へのリンクを追加　します。

オプションメニューの作成

パレットメニューに表示するオプションメニュー（AgileWorks へのリンク）を作成します。

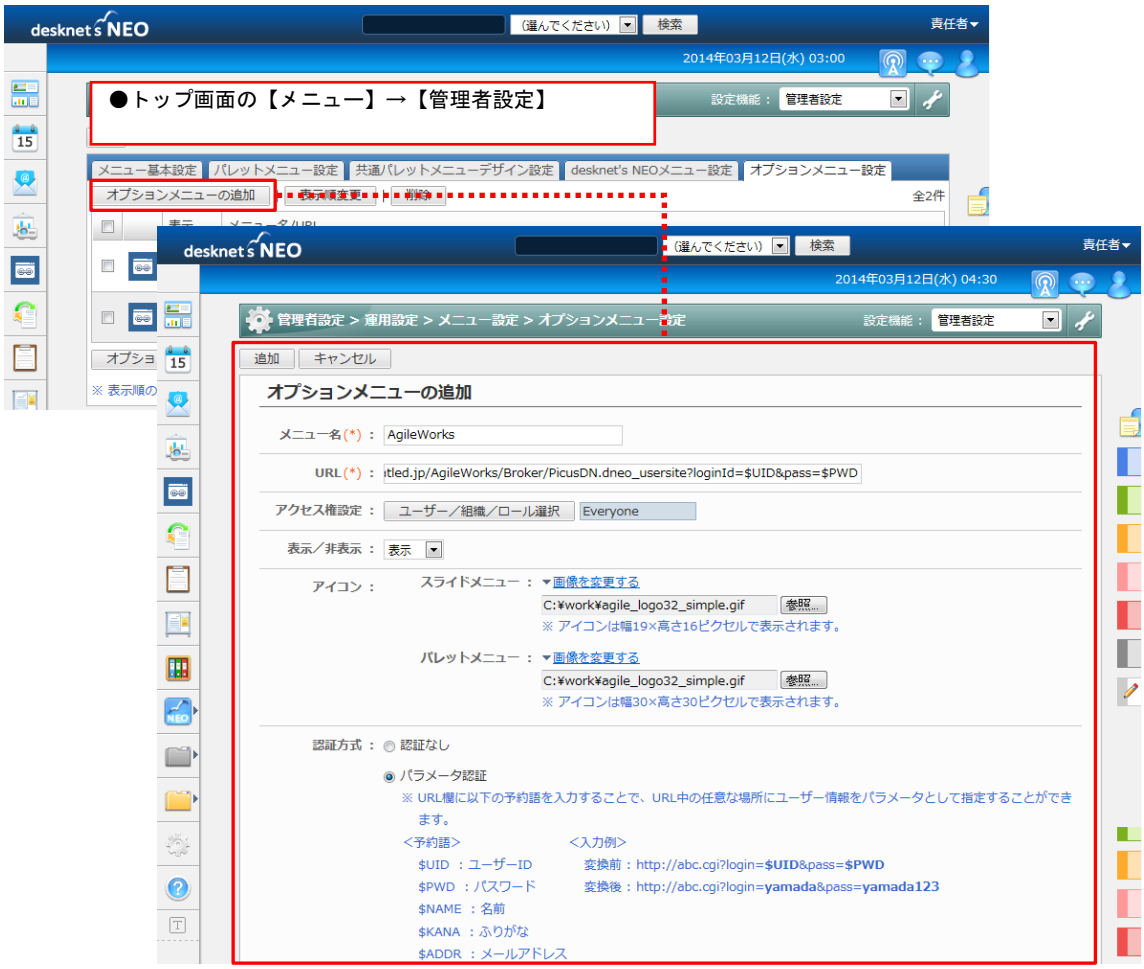
▼トップ画面の【メニュー】→【管理者設定】から【管理者設定】画面に遷移します。



▼【管理者設定】画面右上の  から【オプションメニュー設定】を開きます。



▼【オプションメニューの追加】をクリックし、設定画面を開きます。



desknet's NEO のメニューに AgileWorks へのリンクを表示する際に必要な設定は以下となります。

▼ 設定項目

項目名	選択 / 入力値
メニュー名	メニューに表示する為の任意名称を入力。 例）AgileWorks
URL	AgileWorks で設定したログイン認証設定の URL を元に入力します。 例） http://agileworks.atled.jp/AgileWorks/Broker/PicusDN.Dneo_usersite?loginId=$UID&pass=$PWD 詳細は「desknet's NEO 側の設定で指定する URL」を参照ください。
アクセス権設定	desknet's NEO 上で対象のメニューを利用可能なユーザーや組織を設定します。
表示／非表示	「表示」を選択します。
アイコン	スライドメニュー、パレットメニューのそれぞれに表示する際のアイコンを指定します。 AgileWorks が標準で用意しているアイコンを利用する場合は、下記の URL にアクセスし、表示された画像を操作端末上に保存して指定します。 http(s)://{Server}/{Context}/images/cb/agile_logo32_simple.gif ・{Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN または IP ・{Context} : AgileWorks インストール時に指定したコンテキスト名。 （初期設定通りインストールすると AgileWorks） 独自アイコンを利用するには、該当ファイルを指定してください。
認証方式	「パラメータ認証」を選択します。 詳細は「パラメータ認証」を参照ください。

▼設定例



▼各項目を入力後、【追加】すると【オプションメニュー設定】の一覧に追加した設定が表示されます。



作成したオプションメニューの配置

オプションメニューを作成した画面の【共通パレットメニューデザイン設定】タブにて配置の変更を行います。

▼【共通パレットメニューデザイン設定】タブで作成したオプションメニューを追加し、【変更】します。



5.2.　ガジェットの設定

共通ポータルメニューに AgileWorks のガジェットを追加します。

ポータルの作成

ポートレットに表示するポータル（AgileWorks の各種ガジェット）を作成します。

▼トップ画面右上のから【機能管理】→【共通ポータルデザイン設定】を開きます。



▼画面右側の【自由形式】タブから【共有コンテンツ作成】をクリックし、設定画面を開きます。



desknet's NEO のポータルに AgileWorks のガジェットを表示する際に必要な設定は以下となります。

▼ 設定項目

項目名	選択 / 入力値
種別	「URL」を選択します。
タイトル	ポータルに表示する為の任意名称を入力。 例）書類件数、書類作成、書類一覧
URL	AgileWorks で設定したログイン認証設定の URL を元に入力します。 元にする URL は表示したいガジェットの内どれかを選択します。 →「書類件数、書類作成、書類一覧」 詳細は「desknet's NEO 側の設定で指定する URL」を参照ください。
アクセス権設定	desknet's NEO 上で対象のメニューを利用可能なユーザーや組織を設定します。
フレームの高さ	ご利用環境に合わせて設定してください。
シングルサインオン	「行う」を選択します。 詳細は「パラメータ認証」を参照ください。

▼設定例



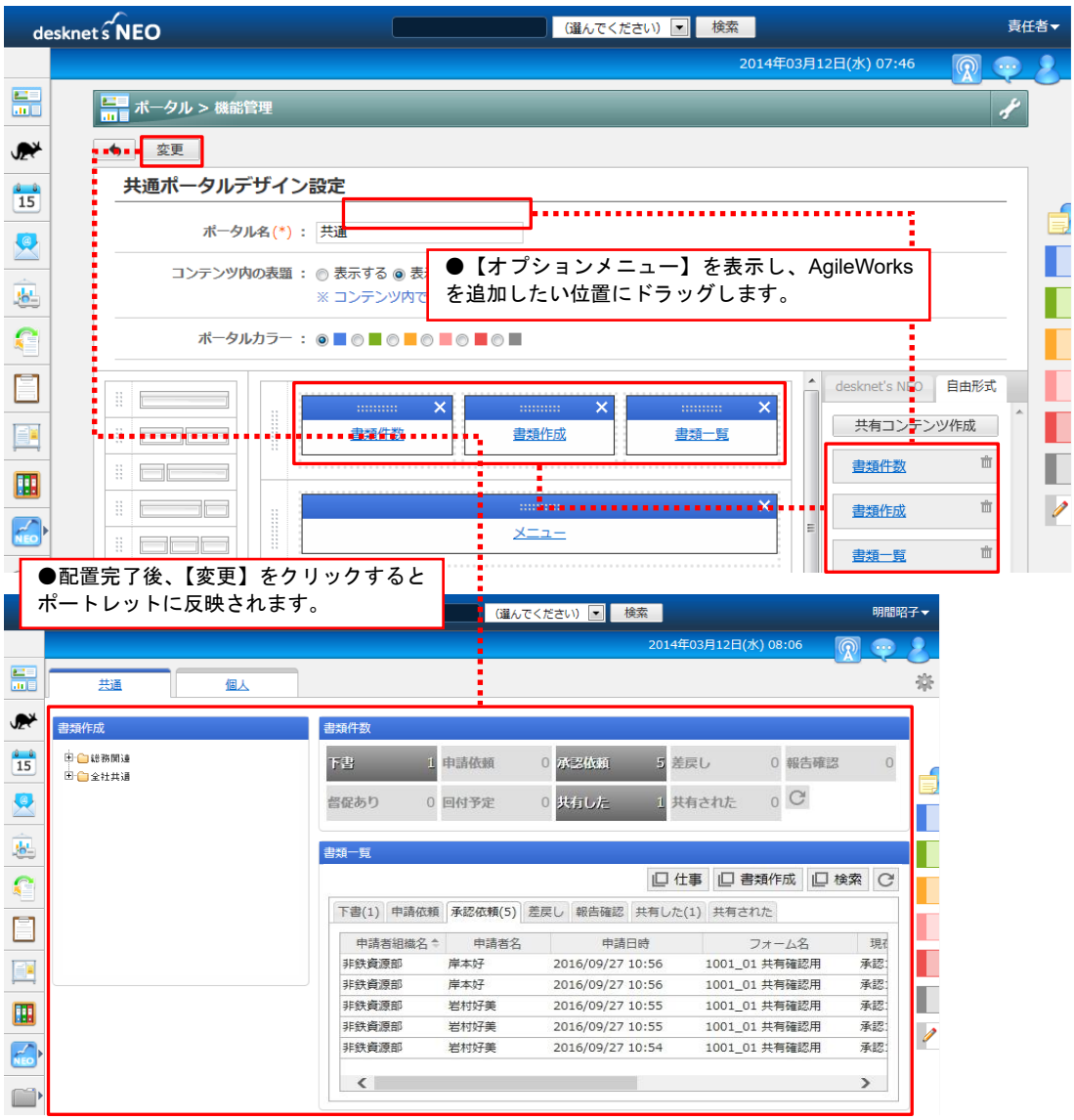
▼各項目を入力後、【作成】すると【自由形式】タブの一覧に追加したポータルが表示されます。



作成したポータルの配置

ポータルを作成した【共通ポータルデザイン設定】画面で配置の変更を行います。

▼【共通パレットメニューデザイン設定】タブで作成したオプションメニューを追加し、【変更】します。



5.3. パラメータ認証

desknet's NEO 側の認証方式で選択するパラメータ認証とは、該当設定の URL 中にユーザー情報をパラメータとして利用できる方式です。

利用できるパラメータは 5 種類ありますが、AgileWorks との連携に利用するためには AgileWorks 側のユーザー情報と同期されている必要があるため、全てのパラメータを利用できるわけではありません。

▼利用できるユーザー情報

ユーザー情報	予約語 （URL 内で指定するパラメータ）	AgileWorks のユーザー情報との引当
ユーザーID	$UID	ユーザーコード、又はログイン ID との引当に利用可。
パスワード	$PWD	AgileWorks のログイン認証設定でパスワードを利用する場合のみ利用します。
名前	$NAME	一意な文字列ではないため引き当て不可。
ふりがな	$KANA	一意な文字列ではないため引き当て不可。
メールアドレス	$ADDR	両製品内で一意な文字列な場合、利用可。

利用できるユーザー情報について
上記は一般的な運用を行っている場合です。
「名前」を「ユーザーID」と同じにしている場合などは desknet's NEO の「名前」を AgileWorks の「ユーザーコード」と引き当てることができる場合があります。
製品間でのユーザー情報の同期に関しては「製品間ログインユーザーのキー項目同期」を参照ください。

5.4. desknet's NEO 側の設定で指定する URL

desknet's NEO 側で設定した「メニューの設定」と「ポートレットの設定」で指定する URL について説明します。

それぞれの設定で指定する URL は desknet's NEO から AgileWorks へ SSO 連携するために以下の情報を組み合わせて生成します。

利用する情報	説明
AgileWorks のログイン認証設定で生成された URL	ログイン認証設定の【基本】タブに表示される URL
AgileWorks のログイン認証設定で指定した引当項目	ログイン認証設定の【認証】タブで設定した【対象】の【値】
パラメータ認証によって利用できるユーザー情報	ユーザー引当項目の予約語

本書では、「AgileWorks ログイン認証設定」の設定を行った場合の各 URL を説明します。

▼「AgileWorks ログイン認証設定」で行った設定

設定	ユーザーサイト	ガジェット
【基本】コード	dn_usersite	dn_gadget
【基本】対象アプリケーション	ユーザーサイト	ガジェット
【基本】URL	/Broker/PicusDN.dn_usersite	書類件数ガジェット /Broker/GadgetDN.dn_gadget?Code=$portlet.count 書類作成ガジェット /Broker/GadgetDN.dn_gadget?Code=$portlet.create 書類一覧ガジェット /Broker/GadgetDN.dn_gadget?Code=$portlet.list
【認証】対象	ログイン ID	ログイン ID
【認証】値	loginId	loginId
【認証】パスワード	パスワード認証を行う pass	パスワード認証を行う pass

上記の設定を行ったとして、オプションメニューとポータルに設定する URL を説明します。

オプションメニュー（ユーザーサイトリンク）用URL

http(s)://{Server}/{Context}/Broker/PicusDN.{Code}?{Target}={DN_UserInfo}[&{Pass}={DN_Pass}]

- {Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN
- {Context} : インストール時に指定したコンテキスト名。（初期設定通りインストールすると AgileWorks）
- {Code} : ログイン認証設定の「コード」
- {Target}:ログイン認証設定の【認証】タブで【値】に指定した文字列
- {DN_UserInfo}:{Target}に相当する desknet's NEO 側の予約語
- {Pass}:ログイン認証設定の【認証】タブで【パスワード】に指定した文字列
- {DN_Pass}:desknet's NEO 側のパスワードの予約語

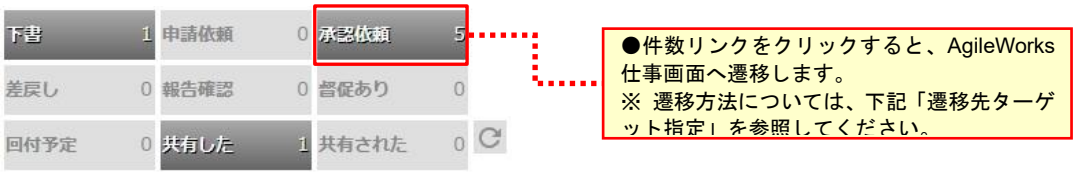
※ マニュアル通りの設定手順の場合（ログイン認証コード：dn_usersite）
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/PicusDN.dn_usersite?loginId=$UID&pass=$PWD

ガジェット表示URL

ガジェット用の URL は表示するガジェットによって異なります。
以下、それぞれ記載します。

▼書類件数ガジェット
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetDN.{Code}?Code=$portlet.count&{Target}={DN_UserInfo}[&{Pass}={DN_Pass}]&aw_target=_top

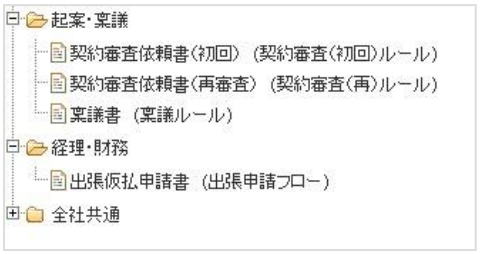
※マニュアル通りの設定手順の場合
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetDN.dn_gadget?Code=$portlet.count&loginId=$UID&pass=$PWD&aw_target=_top



遷移先ターゲット指定について
書類件数ガジェットでは、件数リンクをクリックすると AgileWorks 仕事画面に遷移します。
遷移時の target は、デフォルトでは_blank になっていますが、ガジェット URL のパラメータ「aw_target」にリンクターゲット(target 属性)を指定することで任意のターゲットに遷移できるようになっています。
desknet's NEO では、アプリケーションメニューからの遷移先が同一ブラウザ内になっている為、遷移方法を統一する為に aw_target=_top と指定するようにします。

▼書類作成ガジェット
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetDN.{Code}?Code=$portlet.create&{Target}={DN_UserInfo}[&{Pass}={DN_Pass}]

※マニュアル通りの設定手順の場合
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetDN.dn_gadget?Code=$portlet.create&loginId=$UID&pass=$PWD



▼書類一覧ガジェット
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetDN.{Code}?Code=$portlet.list&{Target}={DN_UserInfo}[&{Pass}={DN_Pass}]&aw_target=_top

※マニュアル通りの設定手順の場合
http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetDN.dn_gadget?Code=$portlet.list&loginId=$UID&pass=$PWD&aw_target=_top



本書の URL 例では、「書類件数ガジェット」「書類一覧ガジェット」の URL にパラメータ aw_target=_top を指定しています。それ以外にもガジェット URL として受け付けているパラメータがありますので、別紙「ログイン認証／SSO ガイド」を参照の上、適宜調整してください。
また、ガジェットからの書類表示は、AgileWorks ユーザーサイトの仕事・検索画面からの表示とは異なる点がありますので、ガジェットからの書類表示方式についても別紙「ログイン認証／SSO ガイド」を参照してください。

5.5. 設定・動作確認

設定と動作確認方法について説明します。

確認カテゴリ	確認項目
（動作確認前の作業） ユーザー同期の確認	動作確認を行う前に、確認に利用するユーザーを desknet's NEO・AgileWorks 間で同期してください。 ※「製品間ログインユーザーのキー項目同期」章を参照
（動作確認） リンクからの遷移を確認	アプリケーションメニューから AgileWorks へ SSO で遷移できるか？
（動作確認） ガジェット表示を確認	ポータルで AgileWorks の各ガジェットが表示できるか？ 下記も合わせて確認します。 ・書類件数ガジェットの件数リンクからの AgileWorks 仕事画面表示 ・書類作成ガジェットからの書類表示 ・書類一覧ガジェットからの書類表示

連携に失敗する場合は「認証情報のトレース」章を参考に、原因切分を実施してください。

6. 応用設定

6.1. 既定のログインを停止する

desknet's NEO からの SSO 連携を有効にした場合、既定のログインを利用したくないケースの設定手順を説明します。
（本章の説明は、任意の設定手順です。）

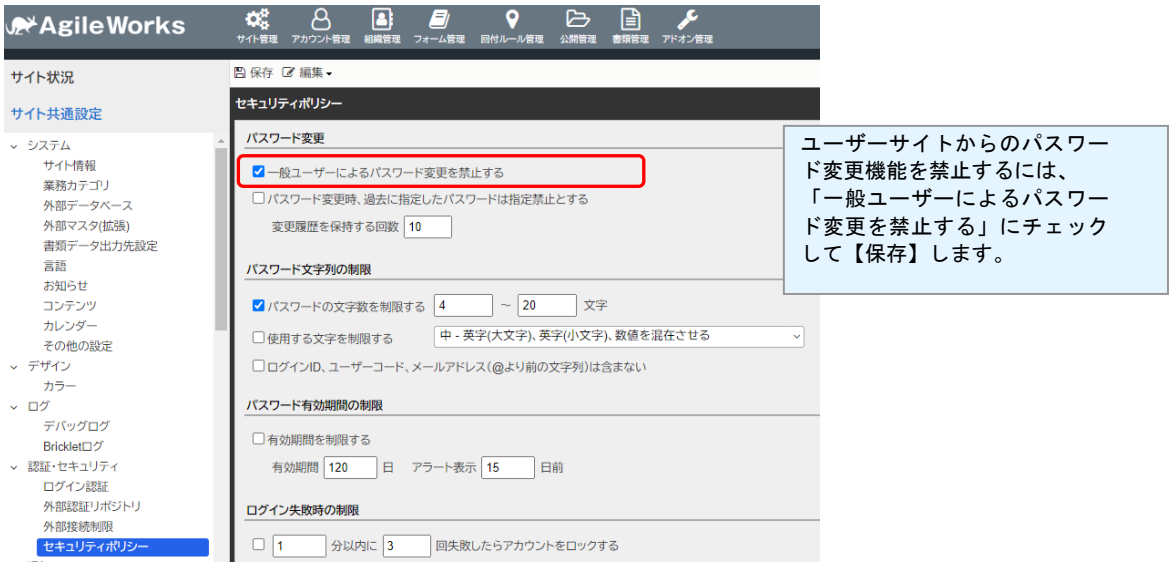
1. 既定のログインを停止する

▼ AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】



2. 一般ユーザーによるパスワード変更を禁止する

▼ AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【セキュリティポリシー】



7. トラブルシューティング

「desknet's NEO 連携」におけるトラブルシューティング方法について説明します。

7.1. 認証情報のトレース

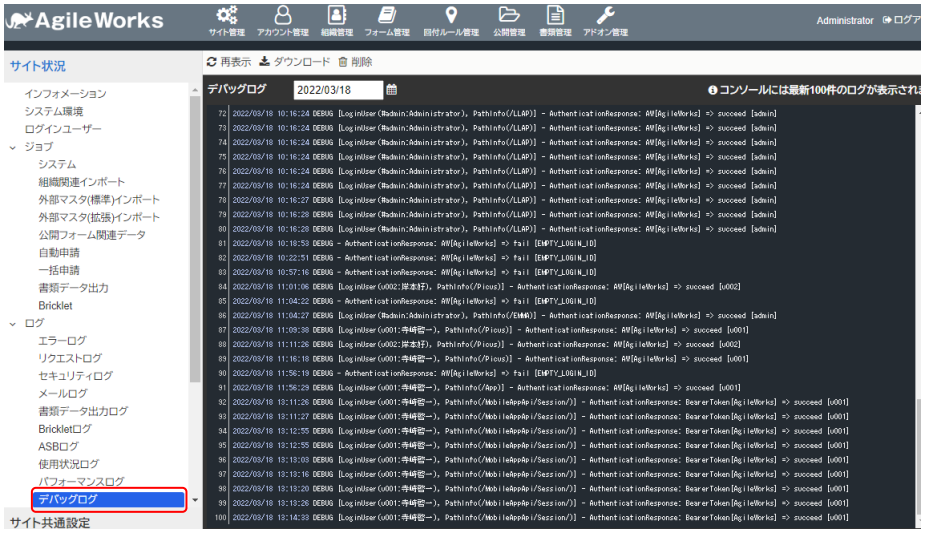
認証に失敗する場合は、AgileWorks 側のデバッグログ「認証情報のトレース」を有効にして、どこで失敗しているか切分確認を行います。

※　クラウド環境ではデバッグログの確認は行えません。

▼ デバッグログ設定
管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【ログ】-【デバッグログ】



▼ デバッグログの確認
管理サイト【サイト管理】-【サイト状況】-【ログ】-【デバッグログ】



> ⚠ 注意事項
> デバッグログは、連携確認時にのみ利用し、確認が終わったら忘れず無効にしてください。
> 有効状態のまま実運用を行うと、デバッグログの肥大化や全体的な処理速度低下のリスクがあります。
> なお、「desknet's NEO 連携」を設定した状態で「認証情報のトレース」を有効にすると、AgileWorks の画面にアクセスする度にデバッグログが出力されますが、デバッグ出力時に毎回認証しているわけではありません。

認証成功時のデバッグログ

▼ 認証成功時のデバッグログ出力例

```
DEBUG [LoginUser(u010:明間昭子), PathInfo(/GadgetDN.dn_gadget)] - AuthenticationResponse: Desknets[認証リポジトリコード] => succeed [u010]
```

・　＜認証リポジトリコード＞部には、AgileWorks 側認証リポジトリコードが出力され、標準では AgileWorks となります。

上記出力例では、ログイン名「u010」が AgileWorks 側に認証成功したことになります。

デバッグログが出力されない

デバッグログを設定したにも関わらず、「desknet's NEO 連携」に関するデバッグログが出力されていない場合は、desknet's NEO 側から AgileWorks に対してリクエストが飛んできていません。
desknet's NEO 側に設定した AgileWorks へのガジェット設定がされていないか、設定した AgileWorks 側 URL が誤っている可能性があります。

デバッグログに「NOT FOUND」と出力される

▼ デバッグログ出力例

```
DEBUG - AuthenticationResponse: Desknets[AgileWorks] => fail [NOT_FOUND]
```

ユーザーの引き当てに失敗した場合に出力されるログです。

desknet's NEO にログインしているユーザーが AgileWorks 側に存在しないか、複数存在しています。
以下の情報を切り分けしてください。

・　ログインしようとしているユーザーが、AgileWorks 側に存在するか？
・　ログインしようとしているユーザーが、AgileWorks 側に複数存在していないか？

※ ユーザーコード、ログイン ID 以外で引当している場合は、ユーザーが同時期に複数存在するケースが起こりえます。